

会報

No. 53

平成13(2001)年1月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9
京都府立図書館内
TEL(075)762-4655

京都学の場として

京都府立総合資料館長 大槻 明 司



新しいインクの華やいだ匂いと鮮やかな色に包まれた街の本屋さんとは違い、古い本が隙間なく詰まったこの書庫に入ると、いつも古い紙と埃の匂いが静かに溜まっていた。新品と変わらぬ美しい装丁のままの本も稀に並んでいるが、多くは背表紙の上部が指の形に凹んでいる。いま、資料館二四七〇㎡の書庫に並べられた書架の半分は空になり、ひんやりとした風が通り抜けていく。昭和三八年開館以来、資料は増加の一途を辿り、一般書・学術書・新聞・雑誌・和書・洋書・(国宝)東寺百合文書を含めた古文書・行政文書など合わせて約七十万冊。書庫は、書架の配置を極限まで工夫して並べるも収容限界となり、事務室や展示室や会議室なども書庫に転用するなどして収容してきたが、新装なった府立図書館(左京区)が

蔵書を充実し機能を拡充して、本年五月中旬開館することに伴い、当館から一般図書を中心に約三七万冊の図書を府立図書館に移すことになり、書庫の風景は大きく変わってしまった。しかし、間もなく、書庫に転用された事務室や会議室から、古文書や行政文書などが移され、元のおり古い紙と埃の匂いなどが入り交じった重い空気が静かに溜まった書庫に戻る。

当館は、京都に関する歴史・文化・産業・生活等の諸資料を総合的に収集し整理し保存し、閲覧・展示することによって府民の調査研究に役立てることを目的に、図書館と博物館と文書館の三つの機能を併せ持った施設として設置され、以来、多くの方々のご協力、ご支援を受けながら今日まで貴重な資料を収集し、それらを府民の方々に提供してきたところである。収集資料が増加するに伴い、博物館機能の充実が求められ、美術工芸・歴史民俗資料などの保存展示機能は、昭和六三年京都文化博物館(中京区)へ移管された。

また今回、約半数の図書移転を期に、再び転機を迎えようとしているわけである。

新しい資料館は、京都に関する図書・雑誌類、日本の歴史と伝統文化・美術工芸関係の図書類、白書などの官庁資料、古文書などの収集・提供のほか、京都府誕生以来の行政文書の保存・提供を行っていくとするもので、今まで以上に『京都』を前面に打ち出した施設となる予定である。また、パソコンによる図書資料検索システムを導入し、府立図書館や府内市町村立図書館との情報ネットワーク化も図り、利用者の利便性も向上させることにしている。

これからも、京都に関する資料を更に充実させていくと共に、今まで府民の方々から寄付や寄託をいただいた多くの貴重な古文書等資料を、大学や研究機関などと連携を取りながら共同研究を行い、解説・整理して、これらの資料群も出来るだけ速く府民の方々にご覧いただけるようなことも検討していきたいと考えている。

教科書では知ることの出来ない京都の歴史や文化の新発見の楽しみを多くの府民の方々に体験していただくよう、職員一同更に所蔵資料に精通し、期待に応えられるよう努力していきたいと決意を新たにしているとところである。再開館まで暫くご迷惑をお掛けすることになりますが、よろしくお願い致します。

平成十二年九月二十一日(木)午後一時三十分から二十二日(金)午前十二時まで、舞鶴西総合会館をメイン会場に宿泊研修会を実施しました。北部の舞鶴市での宿泊研修でしたが延べ三十五名の参加がありました。

二十一日は開会にあたり、村上京因連協会長の挨拶があり、つづいて「私の出会ってきた図書館と子どもたち」と題して福知山淑徳高等学校講師の仲野恵子氏に講演をしていただきました。さらに会場から近い舞鶴市立西図書館の施設見学を行ったあと、宿泊の舞鶴簡易保険センターへ移動、夕刻からの交流会には、舞鶴市立西・東図書館の両館長も出席され盛り上がりしました。さらに自由交流でも講師の仲野先生を交え夜遅くまで話がつきませんでした。

また、二十二日は前日に引き続き仲野先生を講師に「絵本から広がる手作りおもちゃ」の実技指導がありました。蛙や蛇を題材にした作品に時間がすぎにたちました。ご自分でも「みかんの木文庫」を主宰されており、当日は自作の「手作りおもちゃ」を多く持参していただき、図書館に勤める私たちにとって、講師個人の立場を通して、いろいろ教えられる充実した研修会となりました。

平成12年度宿泊研修(北部会場)開催

宿泊研修会に参加して

岩滝町中央公民館図書室

瀬戸真由美

去る九月二十一日から二十二日に舞鶴西総合会館で実施された宿泊研修会に参加しました。

今年はこども読書年にちなんで、講師の仲野恵子さんがご自分の文庫活動の取組みを通じて子どもと本に対する思いをお話していただきました。子どもが本と親しむ場をつぎつぎと作り出してこられたバイタリティーに感銘をうけました。

また、夕食後九時すぎまでいろいろな手作りおもちゃを実演を交えながら教えていただきましたが、「お金はかけず、できるだけ手間が省けるように」というアイディアに感心するとともに、子どもの頃に帰った気分でワクワクしながら先生のお話を聞いていました。翌日の実習では、実際に手作りおもちゃを作りましたが、受講者の方がさらなる一工夫でオリジナルティ溢れるものを作っておられたのが印象的でした。

今回の研修会に参加して、子どもと本との出会いを提供する図書館のあり方を考える良い機会になったと思います。

研修講演録

「私の出会ってきた

図書館と子どもたち」

仲野 恵子

私は一九七九年から長岡京市に住むことになり、図書館の「子どもの本を読む会」に参加するようになった。若いお母さんが多く、活動のためには託児室が必要で、さらにそれが共同保育へとつながっていったが、その場に図書館がベースにあったことは会にとって大きな出発点となった。何かを表現したいという気持ちにはそれを人形劇サークルへと発展させた。生活の中に本が入ってきた私は、その頃、会におられた方の文庫の活動で、本の豊かさを伝えてもらった気がする。



市内に転居した時、以前の文庫の本を集会所で預ってもらったことで、当初、異論が出たが、文庫の活動を目に見える形でやってきたことで理解が得られ、結局は本を置けるようになった。新しい文庫に移った私は、幼稚園で読書会を続けたことなどで図書館に認めてもらっている。本などで支援をしてもらっている。本を広めるための活動を図書館で確保してもらっていることが若いお母さんを育て、それがやがて図書館の援軍となっていくものと思う。

図書館に望むこととして、まず文庫活動を応援してほしいこと、それからいろいろな分野にいろいろな司書が情報交換をして、それを財産として市民が生かせるようにネットワーク化を図ってほしい、と思う。また、図書館を応援する元気な市民を育て、そういう市民と共に図書館を作る方法についていっしょに考えていきたい。そのためには、図書館がレファレンスやさまざまな要求を利用者から引き出す努力をし、カウンターで話しやすい雰囲気づくりに努めてほしい。そして、そうすることで私たちは豊かな図書館づくりのお手伝いが少しでもできることを、本当に願っている。

平成十二年十一月二日(木)午後一時三十分から四時まで京都ライトハウス点字図書館において実務研修会を実施しました。

台風の影響で激しい雨のなか、二十七名の参加者がありました。

最初に「京都ライトハウス点字図書館における視覚障害者サービス」と題する講演が、同図書館の沖田友子氏からありました。

実際の点字図書・テープ図書・デイジー図書(プレクストークという特別の機器で聞くCD図書)を示し、多様なサービスとそれを支えるボランティア・図書館管理システム等について話されました。デイジー図書については、実際に操作もしていただきました。

また、点字図書館の田尻館長からライトハウス改築(平成十六年完成予定)に向けての話もありました。

最後に施設見学です。二班に分けて、点字図書館だけでなくライトハウス全体を丁寧に案内していただきました。

質疑応答も活発で、参加者の方が意欲的に話を聞かれているのが感じ取れる研修会となりました。

平成12年度実務研修会(中部会場)開催

実務研修に参加して

京都市醍醐中央図書館

高井かづみ

「障害者サービス」をテーマに京都ライトハウスで行われた研修に参加しました。

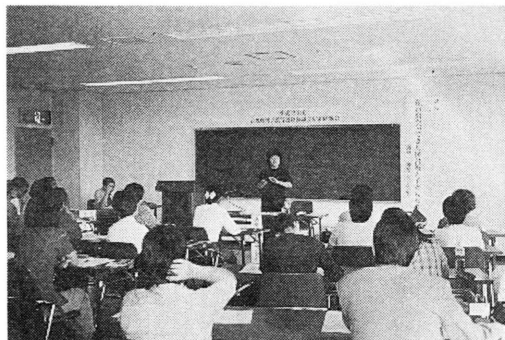
点字図書館の活動についてサービス係の沖田さんからお話を伺い、個々の利用者に適した形態(点字や録音、利用が増えているフロッピーやデイジー)の選択など、きめ細かく対応されていることを知りました。

情報のデジタル化が進み、公共図書館でも資料形態が多様化する中、視覚などに障害をもつ方の資料へのアクセスを容易にし、図書館の利用を身近なものとするには、私達職員のサポートが重要であることを今回強く感じました。

当日は激しい雨もあり、築六十年の建物には厳しい天候でしたが、ライトハウスでは平成十六年に現在の場所での改築が決定されており、情報提供をはじめ相談業務などの支援事業等も一層充実される計画とお聞きしました。実現に向けて私達も応援していきたいと思います。



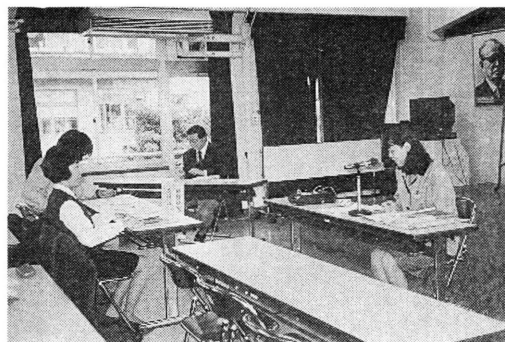
第9回京都図書館大会(2000.9.13)



宿泊研修・北部会場(2000.9.21~22)



第86回全国図書館大会(2000.10.25~27)



実務研修会・中部会場(2000.11.2)

京都図書館大会

第九回京都図書館大会が、平成十二年九月十三日(水)、同志社大学今出川キャンパスで「21世紀の図書館像を探る」をテーマに開催され、公共・大学・学校図書館関係者百五名の参加がありました。

主催者として、村上康夫実行委員長(京図連協会長)・酒川玲子日本図書館協会事務局長の挨拶の後、小・中・大学からの報告がありました。

はじめに京都市立新町小学校の藤沢昭子教諭から「子どもの読書と学校図書館の現状と課題——小学校図書館から——」、次に京都市立西賀茂中学校の進士正憲教諭から「子どもの読書と学校図書館の現状と課題——中学校図書館から——」、さらに、立命館大学の若井勉氏からは「大学生の図書館利用」をテーマに豊富な実践活動を報告していただきました。

日図協の酒川事務局長からは、「図書館の現状と課題」のテーマで特別報告がありました。

交流協議の後、小山雄一京都府立図書館長が「京都府立図書館からの報告」で平成十三年五月開館(予定)の新府立図書館の説明をされました。

最後に実行委員の大城善盛同志社大学教授から大会のまとめがあり、閉会となりました。

第九回京都図書館大会に参加して

木津町中央図書館

中谷 昌子

図書館法制定五十周年という節目の年にあたり、図書館では、公共・大学・学校という館種をこえた連携がより大切になってきています。

今回、立命館大学より『大学生の図書館利用』と題して報告がありましたのでその内容をご紹介します。

今、大学は変化の時代を迎えています。よりハイレベルな教育をうけ、社会で即戦力となる学生を求める時代となり、大学側は、この学部では、どんな学問をして、どんな力がつき、どのような就職ができるかという受験生やその親からの問い合わせに答えなければならぬことが多くなってきたそうです。

このような大学を取りまく環境の変化の中で、大学図書館は、情報リテラシー教育のあり方を検討するとともに、利用時間の延長をはかり、土・日曜も学生のみならず地域に開放するところが増加しています。

若井先生の報告の結びにもありましたように、大学図書館も公共図書館も、もの・人の垣根をとり除かれて発展していくものであり、本来の意味での独自性を図り、誰のための図書館かをおさえていく必要があるのではないかと思います。

全国図書館大会

平成十二年度(第86回)全国図書館大会は、十月二十五日から二十七日までの三日間、約千六百名の参加者を得て、沖縄県那覇市において、開催された。

◎開会式・全体会

開会式は、十月二十五日(水)午後一時から、沖縄県立武道館において行われた。

つづいての全体会において、栗原均日本図書館協会理事長から、この百年間を振りかえり、二十一世紀の図書館のあり方等の目標設定と方法と戦術・戦略を考えていくことが必要との基調報告があった。その後、高良倉吉琉球大学教授から、失われた首里城の復元に込めた思いについての記念講演があった。

◎分科会・関連展示会

二日目から、「公共図書館21世紀への課題」など十四分科会が、十二会場に別れて、研究協議が行われた。また、関連行事として「図書展示会」「OA機器展示会」などが開催されていた。

◎全体会・閉会式

三苦正勝日本図書館協会常務理事と新垣敏光那覇市立中央図書館長を議長として全体会がもたれた。各分科会の報告がなされ、全体討議が活発に行われた後、閉会式となった。

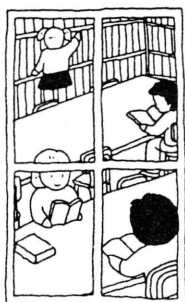
全国図書館大会に参加して

京都市伏見中央図書館

山崎 健蔵

全国図書館大会に参加し、二十一世紀を目前にして、図書館の現状とこれからの課題等について、認識を深めるよい機会となった。

私が参加した第一分科会においては、地方分権、厳しい地方財政事情とIT革命に関わる公共図書館の現状と課題についての報告・講演等があった。各報告者間では、利用者の求めに真摯に耳を傾け、職員が変わろうとする意識を持ち、自己の判断と責任により図書館運営にあたる必要があること、今後印刷媒体と電子メディアがシームレスに使われる図書館になっていく中にあるは、両方に精通した職員が必要であり、また、それができない利用者への援助が図書館の重要な業務になるだろうことについて共通認識されていたと思う。今回の全国図書館大会は「万国津梁の那覇から21世紀へ飛翔」というテーマにふさわしく、図書館界を取り巻く環境と今後について論議された意義深い大会であったと思う。



新 加 盟 館 紹 介

夜久野町教育文化会館図書室

JR下夜久野駅から徒歩約三分の所にある教育文化会館の一室に、念願の図書室が開室しました。

蔵書数は、府立図書館からの借り受けを含め現在約九千冊ですが、今後少しずつ増やしていきます。

さて、図書館活動ですが、毎月新刊を広報「やくの」でお知らせし、その中からお薦めの一冊を簡単なコメントと一緒に紹介しています。

十一月には子ども読書年にちなみ、記念イベントとしてリサイクルのための図書の交換会や人形劇サークルを招いての公演等を行いました。

また、十月からは、ある身体障害者の方からの図書貸出の要請を受け、社会福祉協議会とタイアップして貸出業務を行うことになりました。

まだよちよち歩きの図書館ですが

ぜひ来年度には総合目録データベースのBタイプに参加して、図書の管理がスムーズにできるようになればと願っています。



南山城村教育委員会図書室

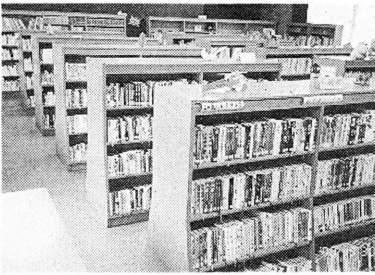
京都府下でただ一つの村の図書室です。平成四年三月に開室しています。当時のJA南山城農協の二階が役場の集会所会議室だった所を、図書室に利用しています。

南山城村は地域が広範囲なため、利用者にとっては課題もたくさんあります。そのために各小学校や地域の婦人会館や公民館に貸出をして、年一回交換移動図書として活用されるよう工夫しています。

図書室の活動としては、小学生や幼児向けに「お話し・読み聞かせ会」や「映画会・手作り玩具の会」を、第四土曜日に実施しています。

その他、「図書室まつり」や「クリスマス会」をして図書室の啓発に努めています。

今回、京都府図書館等連絡協議会



に加入させていただき、より多くの住民の方々の利用を期待しています。

LIBRARY NEWS — 京都市左京図書館 —

大好評の夜間・祝日開館

「昨日の夜の貸出は何冊あった？」から左京図書館の朝のミーティングが始まります。

平成十一年五月十四日の移転開館とともに、コンピュータ導入および※「京・ライブラリーネット」とのオンライン

化が実現し、貸出冊数も大幅に増え、地域図書館で最も利用の多い図書館として地域の方々に親しまれてきました。

順調に貸出冊数が伸びていく中で、市民の熱い

要望であった地域図書館での夜間・祝日開館を左京図書館で実施することとなり、昨年五月十五日からスタートしました。

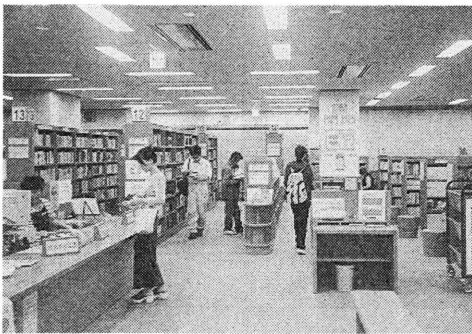
地域図書館はじめての試みということもあり、夜間の二時間半（午後五時～七時三十分）の利用状況が大いに気になる朝のミーティング。

夜間の利用は、平均で約三百五十冊の貸出があり、多いときは、五百冊を超える日もあり職員は大忙しの毎日です。

「仕事帰りに立ち寄れるのがうれしい」という利用者からの声もあり、今まで利用したくてもできなかった人たちが夜間開館を契機に図書館に足を運んでもらえるようになったことが、一番の喜びです。また、夕食までのひとときをのんびり過ごすという人もおられ、自分のスタイル、生活のリズムに合わせて、図書館が利用できることが好評のようです。

「生活のなかに図書館を」が左京図書館のキャッチフレーズ。図書館サービスが地域住民の生活の中へどんどん浸透していくのを感じる今日この頃です。

※「京・ライブラリーネット」は、京都市図書館情報ネットワークの愛称。現在十八館中、十五館が結ばれています。



専門委員会 ニュース

ネットワーク特別委員会

平成十二年九月七日ネットワーク特別委員会を開催、総合目録ネットワーク運営の考え方について府立から提案があり、協議しました。

その主な内容としての「具体的な方法」についての案は、

(1)「京都府図書館総合目録ネットワーク会議」を府立と京図連協との共催で開催する。

(2) 出た意見については、府立も参考にするとともに、ネットワークの運用に関して参加館が共通に遵守すべき事項については相互協力委員会が総合的に整理し、京図連協理事会で機関決定する。

(3) 参加資格・手続等のシステム運営上の基本的な決め事は、ネットワーク準備会で検討、特別委員会の了承を得、府立館長決裁によりこれを内規とする。

等で、今後ネットワーク準備会は「ネットワーク会議」の開催でその役割を終える事になると報告されました。

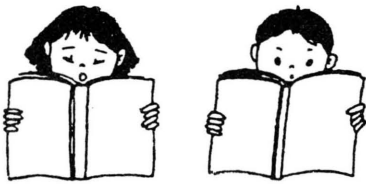
ネットワーク特別委員会としては、今後更に総合目録ネットワークが、より良い方法で運営されるよう、調整、努力していきたいと思います。

研修研究委員会

今年度の研修は、九月二十一日、二十二日に舞鶴市で「私の出会ってきた図書館の子どもたち」をテーマの講演と「絵本から広がる手作りおもちゃ」の実技講習を宿泊研修として開催し、十一月二日には京都市で「京都ライトハウス点字図書館における視覚障害者サービス」をテーマに実務研修会(中部会場)を開催しました。

昨年は「子ども読書年」として各図書館でもいろいろの行事を行われたことと思います。

実務研修会(南部会場)につきましては、各館にご案内しております実施要綱のとおり行います。多数ご参加下さいますことを期待しています。



相互協力委員会

十月十三日(金)に第一回相互協力委員会を開きました。まず、自己紹介の後、相互協力活動の現状についての意見交換をしました。WANTED掲載資料の制限等について質問や意見が出されましたが、「新刊本でも品切れが多い、来年五月(予定)の府立の新館開館などの状況を考え、WANTEDのやり方の変更はしない。」とまとめられました。

次に府立図書館の新館への移転に伴う連絡協力車・WANTEDの一時休止について、府立から説明とお願いがありました。

また、京都府図書館総合目録ネットワークについて府立図書館の小山館長、川上主幹から説明と提示がありました。内容は、京都府図書館総合目録ネットワークの運営とネットワーク関係の組織・規程についての説明です。質疑応答の後、①「京都府図書館総合目録ネットワーク会議」の設定とこれへの相互協力委員の参加、②「資料の相互貸借実施要領」等規程類の見直しの方向性について確認しました。WANTEDについては、「京都府図書館総合目録ネットワーク会議や相互協力委員会での論議を踏まえて、運用について検討したい。」と小山館長から発言がありました。

広報委員会

次号は今年度最終号。四ページ建てで、三月十五日に発行予定です。

編集子

二十一世紀 新年おめでとうございませう。

二十一世紀最初の会報をお届けします。昨年は何事にも、二十世紀最後という接頭語をつけるのが流行でしたが、今年は二十一世紀最初となるのでしょうか。世紀末の昨年は図書館法制定五十周年、子ども読書年と図書館界にとって節目の年でした。

百年前、二十世紀を迎えた千九百一年一月一日の大阪朝日新聞のトップ記事は社説風の論説記事「新年を迎ふ」で明治三十四年と二十世紀の第一年を迎えることを賀し。その後、内外情勢に触れ、内政では政治腐敗と教育問題が新世紀を迎えるにあたって引き続き課題とし、そして新世紀に希望を求めることは相当の覚悟がいると述べています。

「歴史は繰り返す」蓋し名言では……。

二十一世紀が図書館にとって希望に満ちた世紀となるよう各々が努力したいものです。